



浜家連 ニュース 5月号

第189号

平成28(2016)年5月1日発行

○発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会
事務局 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町1752番地
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階
電話 045(548)4816 FAX045(548)4836

巻頭言 精神障害者が働くということ 副理事長 鷹野 薫

「20年間の地域活動支援センター（いわゆる作業所）の運営で学んだこと ＝精神障害者が働くことへの道のりは、親と子の根気比べだ！」

私の4歳になる孫は「早く大きくなって、お父さんの様に会社に行って働いて、お母さんと結婚する」と云います。父や母や、じじ、ばばが教えたわけではありません。

この言葉を聞いて、私は「人はもともと、大人になったら、働きたいと考えている」との思を強くします。

「大人になって働く」と云う社会一般の概念は「月曜日から金曜日まで、朝9時から夕方5時まで働く」と云う概念です。

ところが、世の中には、見た目には健常者と変わらないが、障害のため、大人になっても「働かない」のではなく「働けない」人がいるのです。

この障害を持った人が精神障害者です。多くの親は自分の親が働いていた姿を見て育ててきましたので、自分も大人になったらいつの間にか働いていました。

従って、自分の子供も「大人になったら自然に働くものだ」と考えています。このため「働かない」のではなく「働けない」ということが理解出来ません。

この結果「良い若い者が家でぶらぶらしてないで外で働きなさい」と、つい言ってしまいます。本当は「働きたくとも働けない」本人が一番苦しんでいるのに、その傷口に更に塩を塗ってしまいます。

私が運営に関わっている地域活動支援センター（いわゆる作業所）には約45名のメンバーがいますが、横浜SSJさんが運営している「斎場」で7名が働いています。

私たちは、「地域活動支援センターをミニ社会」と仮定し、メニューの一つとして「就労・働くこと」を目指して様々な練習をしています。そしてその練習のゴールの一つが「斎場」となっています。

ただし、このゴールへの道のりは長く、平坦ではありません。スタートは「朝7時ごろ起きる」ことです。「朝7時ごろ起きる」ためには「前の晩10時から11時に寝ること」が必要です。昼夜逆転している人が「10時から11時に寝る」ことが如何に大変か。・・・ここが親と子の根気比べです・・・

具体的には、

- ① 先ず親が、子供が「働かない」のではなく「働けない」ということを理解し、納得すること。「働きなさい」と決して言わないこと。
- ② 子供は「働きたい気持ちを持っており、今はダメでも必ず働けるようになる」と固く信じること。・・・私の学んだこと『子供は絶対潜在的な能力を持っています』・・・
- ③ 「早く寝なさい」と口で云わないで、行動で見せる。「明日早いので、もう寝るね」



と云って自分達も10時、11時に就眠する。

④親は朝7時には食事をしている。目覚まし時計を鳴らしたり、動きまわって音は立てるが「起きなさい」とは決して言わない。

⑤この流れを根気よく続けること。・「親と子の根気比べ」・「親がどこまで我慢出来るか」・「子供の課題ではなく、親の課題です」

ここまでは家庭での「本人がどうしたら眠れるか」の工夫を子供と親と一緒に考えて、共同作業することです。

「前の晩10時か11時に寝ること」が継続的に出来るようになれば勝ちで、自然に道が開けます。後は私達にお任せ下さい。

①⇒「9時ごろの開所時刻に自分の足で通所する」

②⇒「ソファで寝ていたり、様子を見ていたり、ぼーとして過ごす、朝のミーティングには参加して、挨拶する」

③⇒「スタッフ、仲間と会話をし、他人と交わる術を学ぶ」

④⇒ポスティングやスポーツをして「体力を付ける」

⑤⇒事業所の掃除をして「掃除の術を学ぶ」

⑥⇒地区センター内の喫茶店で「挨拶の仕方、コーヒーの入れ方、サービスの仕方、レジの打ち方」などを学び、立って仕事をする事で、「持久力を付ける」

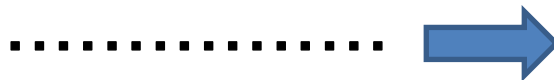
⑦⇒斎場の従業員に就職する、という流れです。斎場の従業員として10年選手もいて、一人でAPに住んでいる人もいます。APの契約の際、大家さんが「10年も同じところで働いているなんてたいしたものだ」と云って契約してくれました。

もちろん、横浜SSJさんではなく、スーパーの品出し、マンション・地区センターの掃除係、図書館などで働いている人もいます。

どの人も最初は同じで「前の晩10時か11時に寝ること」がスタートです。

「親と子の根気比べを乗り切った家族に、精神障害者が働く道が開けます。」

浜家連の動き



***** 緊急滞在場所についてのアンケートがまとまりました*****

家族の緊急滞在場所の利用についての制度をよりよくするため、皆様をお願いしておりました「家族の滞在場所」についてのアンケート」結果について報告します。262名の方から回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

【アンケート結果】

★過去に当事者に暴力を振るわれたことはありますか

	回答数	率 (%)
ない	125	49.6
ある	126	50.0
その他	1	0.4

★現在も暴力を振るわれることはありますか。

	回答数	率 (%)
ない	102	81.0
ある	24	19.0

★暴力の頻度

	回答数	率 (%)
1回	34	27.0
時々	67	53.2
始終	1	0.8
未回答	24	19.0

★暴力を振るわれた時、どう対処しましたか

	回答数	率 (%)
1. 我慢した	46	36.5
2. 説得した	33	26.2
3. 逃げた	48	38.1
4. 警察を呼んだ	26	22.2
5. 未回答	2	1.6

★緊急滞在場所については知っていましたか

	これまでに暴力を受けたことが				合 計	
	な い		あ る			
	回答数	率(%)	回答数	率(%)	回答数	率(%)
知っていた	25	20.0	39	31.0	64	25.5
知らなかった	100	80.0	87	69.0	187	67.0
合 計	125	100	126	100	251	100



【アンケート結果から】

これまでに暴力を受けた事がないとの回答は 49.6%、あるとの回答は 50.0%で半々となっていました。「ある」との回答した人の中で「現在も暴力を振るわれていますか」の問いには、81%の方がないと回答していました。

暴力を振るう頻度については「時々」が 53.2%、1回が 27.0%との回答になっており、「始終暴力がある」との回答は 0.8%でした。また、暴力を振るわれた時の対処法としては、「我慢した」「逃げた」の回答が多くなっていました。

緊急滞在場所については、「知っていた」との回答が 25%でした。このなかで、あることは知っているが、場所や手続き方法についてはわからない。との回答が少なからずありました。

健康福祉局と話し合いを行いました

4月6日（水）緊急滞在場所のあり方等について、健康福祉局と話し合いを行いました。

- ・緊急滞在場所について、福祉の案内に載せることはできないが、区のワーカーさんの所に置き紹介したい。
- ・暴力を振るわれるような緊急事態でなくても、親子関係で煮詰まったような時、親の一時休息場所としても使っていただきたい。

との話がありました。

*******平成 29 年度精神保健福祉施策要望書の進捗状況について*******

平成 29 年度精神保健福祉施策要望書について、常任理事会や理事会での討議を基に「要望書まとめ作業部会」でとりまとめ作業が進められています。もうすぐ皆様に案を提案する予定です。

要望書まとめ作業部会委員・・・宮川、大羽、柏木、浅田（敬称略）

家族学習会に参加して

娘が精神疾患を患って十数年。最初はこの病気について何も知らず、通院して服薬していれば家庭内では普通と変わりなく日常生活を送っていて（对人的、社会的にはひきこもり状態でしたが）、家族もこの病気

「さかえ会だより」から

ではないのではないかと疑ったりして楽観視していましたが、徐々に目が上がるという症状が現れ、①薬を変える②合わない③元の薬に戻すということを何回かくりかえすうちにだんだんと症状が重くなり、本人

も家族も苦しんできました。この十年間いろいろな治療してきましたが、どうしても目が上がるのが治らないので、2年前にまた薬を変えてみたら、今度はひどい幻聴が現れて、親は気が動転し不安と恐怖で胸がつぶされそうでした。思い余って以前入っていたさかえ会で親身になっていただいた方に電話をしていろいろ助言してもらい、自分の胸の内を話すうちに心が軽くなったような気がしました。

そしてもう一度さかえ会に入り直し、新たに家族学習会に参加して、この病気に対する知識、対処の仕方、社会資源活用方法などを学びました。特に本人への言葉かけの望ましい対応の方法はとても役立ちました。(それをいつもいつも実行するのは難しいのですが・・・) また、この病気は薬だけでは治らないんだということを実感とし

て知り得たことは大きいことでした。いろいろな情報で頭の中で理解していても家族会の方の体験談で「やはりそうなんだ」と心にストンとくるものがありました。

家族学習会で同じ立場の方々とは学び合い、話し合い、つながる事で知り得た情報がたくさんありました。お互いに自分の悩み、苦しみを話し合うことで一人ではないんだと心が救われる事もありました。参加して良かったと思えました。娘はまだまだまだ前途多難ですが、あせらず共に歩んで行こうと思います。

いつの日か娘の目が上がらなくなり、外に向かって前向きに歩いていける日が訪れますように！そしていつの日かこの病気が克服されて、親の嘆き、悲しみがなくなりますように！



～目の上がる副作用を経験された方がありましたら
体験談をお寄せ下さい。(事務局より)～

NPO法人浜家連第8回通常総会のお知らせ

日時：平成28年5月30日(月) 13:00～15:00

会場：横浜ラポール2階大会議室

【議案】

- ①平成27年度事業報告(案)及び収支決算(案)について
- ②平成27年度会計監査について
- ③平成28年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
- ④平成28年度役員改選について
- ⑤その他

【総会終了後のアトラクション】

“港南YOU輝”の方による演奏会があります。

・・・編集後記・・・

熊本地方で震度7を超え、死者が50人前後となる大地震が発生しました。1階部分が押しつぶされてしまった家や、道路が大きく陥没した映像が映し出され、地震のすさまじさを物語っているようでした。これまでの地震とは違い、本震とも余震とも区別がつかない強い揺れが長い間続いて、被災地の皆さんの心情が思いやられます。こんな中、障害者の方々は無事に避難できたのだろうか、理不尽な扱いを受けていないだろうか、薬は、治療は・・・、さまざまな思いが頭をよぎります。

地震の揺れが終息し、「復興へ向かうエネルギー」を持てる日が一日も早く来るよう祈るばかりです。
(事務局 中居)